



Volunteer Report

※上記の写真は、南相馬市の北泉海岸を案内していただいている時の写真

福島スタディツアー (国内体験学習プログラム)

～福島『今』を見て、現地で生きる人々の『言葉』から、『自分』を見つめる～ 報告会

巨大地震、津波、原発事故。人類史上初の複合災害から15年が経とうとしています。

時とともに記憶の風化が懸念される今、福島を訪れました。

南相馬、福島、浪江、そして大熊。震災遺構や伝承館の訪問、中間貯蔵施設の見学、そして現地の市民団体の方々との対話を通して、震災の記憶をどう継承すべきか、この問題にどう向き合うべきかを深く考える機会となりました。

現場で何を感じ、何を学んだのか。学生たちが自らの言葉で伝えます。

龍大生・教職員はもちろん、一般の方のご参加も心よりお待ちしております。ぜひ、ご参加ください

開催日時：2026年5月18日（月）17：15～19：00

会場：深草キャンパス 慧光館103教室

★申込不要。直接会場へお越しください。

オンライン(Zoom)での参加も可能です
5/18（月）の17:10以降に入室してください →



お問い合わせ

ボランティア・NPO活動センター

学びを行動へ。行動を未来へ。

～2026年、センター設立25周年！ボランティア国際年！～

【深草】成就館1階 【瀬田】青志館(生協食堂)横

平日9:00 (火曜は10:45)～17:00

HP



Facebook



X



E-mail: ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp

(深草・瀬田の共通アドレス)

福島スタディツアーの様子



福島市の農園見学した。安全なものを届けるための取組についてお話をうかがった。



南相馬市内にある「おれたちの伝承館」アートを通じて、震災について伝えている。

福島スタディツアーのポイント

1. 福祉関係者、農家、市民団体など、多様な立場の人たちから直接、話を直接聞くことができました。
2. 毎日、活動後にふりかえりを行い、視点や気づきを共有しました。
3. 今回初めての試みで、大熊未来塾の木村氏の案内で中間貯蔵施設の中に入って見学しました。

★大熊未来塾 大熊未来塾～もうひとつの福島再生を考える～

東日本大震災の津波で自宅は流失し、父と妻、次女が行方不明になったが、東京電力福島第一原発事故により捜索が打ち切れ、その後、次女の汐凧(ゆうな)さんの遺骨の一部が発見されるまで5年9か月を要しました。現在は福島県いわき市に拠点を移し、中間貯蔵施設立地区域内に含まれてしまった自宅跡に通い、捜索を継続する傍ら語り部として活動しています。

大熊町の中間貯蔵施設とは？

- 大熊町:福島県の沿岸部に位置した町で、原発事故による一時全町避難を経験しました。2022年には町の中心地の避難指示が解除されるなど、町はいま大きな転換期を迎えています。
- 中間貯蔵施設:福島県内の除染に伴い発生した土壌や廃棄物等を最終処分までの間、安全に集中的に貯蔵する施設として、東京電力福島第一原子力発電所を取り囲む形で、大熊町・双葉町に整備されています

日	主なスケジュール	宿泊地
2/10(火)	京都から福島への移動 オリエンテーション等 市民活動団体からのお話	福島市泊
2/11(水)	農園、伝承館、震災遺構等の訪問	南相馬市泊
2/12(木)	南相馬市内の視察 福祉関係者からのお話	南相馬市泊
2/13(金)	大熊町の中間貯蔵施設を視察 大熊未来塾の方との質疑応答の時間 全体ふりかえり	

参加者の声

人生観が変わりました。自分が当たり前に行けないことをどれだけ知れていなかったかがわかりました。またあつたらぜひ参加したいと思います。本当に貴重な体験をさせてもらいました。



15年前から時が止まったかのような教室
大熊町の熊町小学校